

福島県飯舘村における山菜とキノコによる農業再生

Wild vegetables and mushrooms retrieving agriculter in litate Village,
Fukushima Prefecture

*登尾 浩助¹、福山 雄大²、藤田 理子¹、杉野 弘明²、溝口 勝²

*Kosuke Noborio¹, Yudai Fukuyama², Satoko Fujita¹, Hiroaki Sugino², Masaru Mizoguchi²

1. 明治大学、2. 東京大学

1. Meiji University, 2. the Univewrsity of Tokyo

山林斜面に生育する山菜やキノコは、将来的には飯舘村の主要な農産物になる可能性がある。福島第一原子力発電所からの放射性セシウムの降下物は、周辺の地表土壌を汚染した。汚染された表層土壌の除去は、最近、農地では完了したが、山菜やキノコが生育する森林では実施されていない。マツタケは、制御された環境下での栽培事例が無いので、日本では貴重な野生キノコの一つである。マツタケは、飯舘村で農業を再生するための重要な農産物になり得ると考えた。マツタケの生育環境条件を知るために、リター層の温度と気温を測定した。環境条件の予備結果を報告する。

キーワード：マツタケ、環境測定、土壌環境

Keywords: pine mushroom, sensing environmental factors, soil environment

